

業 種	海運（貨物）
取組分野	（7）事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用
テ ー マ	ヒヤリ・ハット情報の収集・活用に向けた経営管理部門のサポート
取組の狙い	平成24年4月の会社合併を契機に、 <u>新会社における安全管理システムを社内に浸透させ、リスク管理の取組みを全社あげて積極的に推進するため。</u>
具体的内容	<p>昭和日タン株式会社は、事故や災害は不安全状態と不安全行動が合体した時に起きているとの思いから、無事故を目指すにはそのような不安全状態と不安全行動を一つずつつぶしていくことが必要と考え、ヒヤリ・ハット情報を「欠かせない先取り情報」として位置付けている。</p> <p>そして、ヒヤリ・ハット情報が見逃されたり、報告されないようなことがないよう、職場から積極的に報告され、個人の問題から職場の問題として共有するとともに、ヒヤリ・ハット原因に対して適切な対策を打つために、以下の取組みを行っている。</p> <p>①ヒヤリ・ハットの定義、重要性、発掘事例等をわかりやすく説明した資料及び提出しやすいフォーマットを作成</p> <p>② 経営トップ以下経営幹部、安全担当者が頻繁に訪船（月間約200隻）し、各船の船長に対してヒヤリ・ハット情報を提出しやすい職場風土作りなどについて進言するとともに、無事故表彰の際に提出件数を加味することを周知</p> <p>③ 濃霧時や年末の無事故キャンペーン時には、集中的に情報提供の呼び掛けを促進</p> <p>④ 収集した情報については、毎月、種別（顕在、潜在、想定等別）、要因別（人的、物的、環境等別）、作業別（航海中、停泊中等別）に分類・整理した上で、30件程度抽出し、本社安全担当者がコメントを附して事例集として取りまとめ、各船にフィードバック</p> <p>⑤ 各船においては、危険予知訓練時等の教材として活用</p>
取組の効果	<p>【定量的な効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組を開始した平成24年4月は、旧日本タンカー所属船からほとんど提出がなかったが、上記取組みを推進した結果、旧日本タンカー所属船を含め、各船からまんべんなく提出されるようになった（平成24年度のヒヤリ・ハット収集件数は3, 105件、平成25年度は9月末までで5, 613件に増加）。 平成24年度上期の事故発生件数は7件だったが、平成25年度同期は2件に減少した。 <p>【定性的な効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗組員の間、ヒヤリ・ハット情報を共有することが重要という認識が浸透してきた。 ヒヤリ・ハット情報を提出することに対するやらされ感、抵抗感がなくなってきた。
事業者名	昭和日タン株式会社 安全管理部 安全管理グループ （連絡先 03-6268-0435）